

令和5年度 学校評価書 (計画段階) 実施段階)

中等1

福岡県立輝翔館中等教育学校

自己評価 学校運営計画(4月)
Table with columns: 学校運営方針, 昨年度の成果と課題, 評価項目, 具体的目標, 具体的方策, 評価(3月), 次年度の主な課題. Includes sub-sections for 総務部, 教務部, 進路部.

学校関係者評価
Table with columns: 評価(総合), 自己評価は (A:適切である, B:概ね適切である, C:やや適切である, D:不適切である), 項目ごとの評価, 学校関係者評価委員会からの意見.

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
生徒部 (生徒指導)	礼節を重んじた指導を土台とした輝翔館生として望ましい規範意識の育成	挨拶行動、正しい言動、校則の遵守等、輝翔館生としての規範意識と社会性を育成する。 後期生が前期生を教導する場を学期に1回以上設定し、生徒集団の持つ自己教育力を育成する。 携帯電話・スマートフォンの利用マナー徹底と、SNS等に対する正しい理解を育成する。				
	いじめの未然防止、早期発見、積極的認知、早期対応	道徳教育や学校行事、HR活動等を通して、良好な人間関係の構築を推進する。 校内研修・講演等を通じて、学校全体(教職員・生徒)で“いじめを許さない”意識の向上を図る。 各種アンケート、様相観察、保護者との連携を通して、いじめの撲滅に努める。				
	生徒の自主的かつ自治的活動(生徒会活動・委員会活動・ボランティア活動等)の活性化	生徒会・保護者と連携しながら校則の見直し・改定に取り組む。 生徒会執行部・各種委員会・部活動等の自主的・自治的意識の高揚を図る。 掲示板や生徒会通信等を利用し、活動状況の提示・周知徹底を図る。				
生徒部 (保健美化)	生徒や職員の心身の健康に努め、健全な学校生活を推進する	各種検診を通して、生徒、職員の健康増進を図る。 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、訪問相談員との連携を密にする。 教育相談委員会を充実させ、早期対応と職員間の情報共有を行う。				
	環境教育を意識した美化活動の活性化を図る	日々の美化意識を高め、掃除の徹底を図る。 ごみの分別、減量をする。 掃除区域や用具の点検を行う。				
	生徒や職員の安全管理を推進する	新たな感染症対策を徹底させる。 心肺蘇生法、エビペンの使用法など実技研修を行う。 防災避難訓練を実施し、生徒及び職員の危機管理意識を高める。				
生徒部 (寮務)	寮生自身がより良い居住環境を作れるように、生活態度及び資質の向上を図る	常に自室の整理整頓を行わせるとともに、寮務班職員宿泊時に自室及び寮内の大掃除を実施する。(月1回程度) 貴重品ロッカーの活用、自室の鍵の管理を適切に行うよう指導する。 スマートフォン・インターネット使用に関する規則を確実に守るように指導する。				
	寮内での事故及び感染症の発生を未然に防ぐ	防災避難訓練を実施することで非常時の安全確保に努め、同時に寮生自身の危機管理意識を高める。 感染症に対する正確な知識を身につけさせ、自らと他者を守る意識、行動の変容を促進する。 寮務班、生徒部、学年、管理人及び保護者と情報交換を積極的に行い、寮生個々人の状況把握に努める。				
	寮生活における充足感の向上を図り、寮生による自主的な寮生活の運営を目指す	快適な寮生活のために寄宿舎管理人、事務部と連携して、生活環境の改善を行う。 寮長を中心とした上級生が、下級生に対する指導や助言を主体的に行えるよう指導する。 寮行事に寮生が主体的に参加できるよう工夫する。				
第1学年	輝翔館生という意識付けを行い、基本的な生活習慣と規範意識を定着させる	挨拶・時間厳守などの基本的な礼儀作法やマナーを身につけさせる。 輝翔館の伝統行事に意欲的かつ積極的に取り組み、自己の役割を全うさせる。				
	授業規律の確立と学習習慣の定着を図り、確かな学力を身に付けさせる	授業規律を徹底し、落ち着いた学習に取り組める環境を整える。 チャレンジノートを活用し、自主的・自発的な学習の充実を図る。				
	生徒同士の良好な人間関係の育成を図り、明るく安心した学校生活を送らせる	学校生活や行事をとおして、多様な価値観を受け入れる心を育て、良好な人間関係の育成を図る。 学年職員との二者面談を定期的実施し、学校・家庭・関係機関との情報共有を図る。				
第2学年	前期課程の中核を担う学年としての意識付けをおこない、基本的な生活習慣の確立を目指す	時間厳守・挨拶・服装頭髪に注意を払い、1年生の模範となるような礼儀・マナーを確立させる。 継続的な道徳学習や学年行事をおこない、心身の良好な発達を促す。 1年生の手本となる姿を学校生活や寮生活の中で示せるように声かけをおこなう。				
	授業規律の継続と、学習習慣のさらなる定着に努め、確かな学力を身に付けさせる	授業規律を徹底し、落ち着いた学習に取り組める環境を整える。 オリジナルのチャレンジノートを活用させて、家庭学習の習慣化と学力のさらなる向上を図る。 成績上位層の生徒に対して、チャレンジノートとリンクして家庭学習に取り組める環境を整える。				
	何事にも挑戦する心を持ち、実践させ、安心・安全に学校生活を送らせる	学校生活や行事を通して、多様な価値観を受け入れる心を育て、良好な人間関係の育成を図る。 前期課程の中核学年として、リーダーシップの育成と発揮の場を提供する。 様々な校外活動(体験活動)を通して、知見や考え方の幅を広げる。				
第3学年	挨拶の徹底と自律性の涵養	どんな時でもどんな場でも、常識的な行動を選択できる自律性を養う。 元気でさわやかな挨拶を促し、学校を明るい雰囲気にする。 交流の機会をたくさん設け、自らの思いを言葉で伝えられるようにする。				
	学習意欲の向上と学習習慣の確立	日々の授業に積極的に取り組み、自ら学ぼうとする態度を養う。 チャレンジノートを活用・発展させ、家庭学習の習慣化と学力の向上を図る。 学力推移調査を活用し、卒業後の進路につながる学習へと結びつける。				
	学校行事や校外活動への積極的な参加と視野の拡大	学校行事や校外活動に積極的に参加する雰囲気をつくり、協調性を高める。 前期課程の最高学年として、良きリーダーの育成を図る。 様々な校外活動(体験活動)を通して、ものの見方や考え方を広げる。				
第4学年	基本的な生活習慣と学習習慣を確立し、学びに向かう力の育成	時間厳守・挨拶・身だしなみを常に意識させる。また、健康管理への意識を高めさせる。 学習時間と提出物の提出状況の把握を行い、家庭学習習慣の確立を行う。必要に応じて面談を実施する。 朝礼・終礼・HRの時間で生徒の心の発達を促すような話を適宜行う。				
	進路意識の向上と進路目標の具体化を図る	個人面談を実施し、文理選択の考え方を示し、進路意識を持たせる。 オープンキャンパスへの参加を促し、具体的な進路目標を考えさせる。 進路実現に向けて、各種検定や資格試験などに主体的に取り組ませる。				
	生徒理解に努め、信頼関係の構築を図る	二者面談や日常の対話を通して、生徒理解に努め、保護者との連絡を密にすることで信頼関係の構築を図る。 学年、教科担当と保健室との連携を十分に図り、全職員で生徒の把握に努める。 学校生活アンケートや面談を定期的実施し、個々の悩みの解消に努める。				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
第5学年	基本的な生活習慣を確立させ、社会性を育成する	5分前行動を定着させるとともに、心のこもった挨拶や場に適した言葉遣いができるよう指導する。 体育大会などの学校行事を運営する学年としての自覚を持って取り組ませ、達成感を体得させる。 公共の場のルール・マナーを順守させるとともに、学習環境を整え、率先して清掃活動に取り組むよう指導する。		
	進路実現に向けて、学習習慣の確立を図る	「総合的な探究の時間」における課題研究を通して、思考力や表現力などを育み、学力や進路意識の向上に繋げる。 家庭学習時間を確保させ、小テストや課題をやり遂げる習慣を身に付けることで、更なる基礎学力の向上に繋げる。 成績不振者に対して正副担任と教科担当の連携のもと、その原因を把握し、十分な指導を行う。		
	生徒理解に努め、信頼関係の構築を図る	二者面談や日常の対話を通して、生徒理解に努め、信頼関係の構築を図る。 保護者との連絡を密に行い、信頼関係の構築を図る。 学年、教科担当と保健室との連携を十分に図り、全職員で生徒の把握に努める。		
第6学年	全ての生徒の希望進路実現	進路行事の計画的な運営を通して、生徒が自己理解を深め、主体的に進路を探索できるようにする。 二者面談・三者面談を継続して行い、進路面での情報提供や情報共有などの適切な指導・助言を行う。 学年通信の発行や授業を通して、多様な進路希望に応じた進路情報を提供し、情報を共有する。		
	進路実現に向けた学力向上と学習習慣の完成	授業と家庭学習の連携を重視し、進路目標達成のための更なる学力向上を目指す。 進路実現を意識した一年間の計画を考えさせ、生徒自身の自主性を重視して学習習慣を完成させる。 生徒の希望進路や学力について学年・教科担当・部活動顧問等と情報を共有する。		
	社会に貢献できる人材育成	体育大会等の学校行事を通して、主体性・自主性を涵養し、自己把握・他者理解を深めることができるようにする。 挨拶や清掃の徹底、服装やマナーの指導をとおし、基本的な社会的技能の自立的習得を図る。 様々な場面で、最高学年としての振る舞いや言動を常に意識させる。		
事務部	教育環境の充実及び改善	魅力ある学校づくりを実現するため、施設設備等教育環境の更なる充実、改善を図る。 生徒・教職員の安全安心を確保するため、施設設備の危険箇所の解消に努める。		
	事務室業務の効率化	定数削減後の事務室機能を維持するため、各種業務の見直しを図り、業務改善に取り組む。		
組織マネジメント	教職員の協働及び学校経営への参画	学校重点目標を意識するとともに教育の質を向上させるために、校務運営会議や各委員会の活性化と充実を図る。 各部運営において、チェックと改善策を講じる仕組みを構築し、PDCAサイクルを確立させる。 運営委員会で起案した内容を審議するために、先を見通した起案の徹底を図る。		
	危機管理体制の確立	生徒に関わる事件・事故の即時報告を徹底させ、適切かつ的確な初期対応をとる。 事故防止のため、日直業務の中に学校施設・設備の点検を取り入れる。不備があればすぐに報告させ、危険の未然防止に努める。 危機管理マニュアルの内容を職員に周知し、緊急時において迅速かつ正確な対応ができる体制を確立する。		
	教職員の不祥事防止、服務規律の確保と働き方改革の推進	校内研修等を通して、全職員に教育公務員としての自覚を持たせ、服務規律を確保する意識を高めさせる。 飲酒運転、体罰、わいせつ行為、情報漏洩等の不祥事防止の意識喚起を行う。 毎週月曜日の定時退校日等の推進を中心に、業務の効率化を推進し、勤務時間超過の縮減を図る。		

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

--

評価項目以外のものに関する意見

--